

(様式2)

乳房炎における分離菌の状況と薬剤耐性動向

: 伊那家保 平野皓己

1 平成27年度～令和2年度の過去6年間の乳房炎依頼
2 検査3,051検体について菌種別分離状況及び薬剤耐性
3 率を調査。分離状況ではレンサ球菌 (Str) 1,144株、
4 コアグラージェ陰性ブドウ球菌 (CNS) 908株、黄色ブド
5 ウ球菌 (SA) 816株、大腸菌 (*E. coli*) 458株の順に多
6 かった。また、Str及びSAは夏期に分離割合が減少、
7 CNS及び*E. coli*は夏期に増加。年度別の薬剤耐性出現
8 率はStrではペニシリンに対して18.9～29.6%、アン
9 ピシリン15.3～30.3%、ネオマイシン62.6～73.4%、
10 エリスロマイシン13.2～26.2%、オキシテトラサイク
11 リン8.8～28.6%であった。また、*E. coli*ではセファ
12 ゴリン及びネオマイシンの耐性率減少を認めたが、中
13 間耐性率の上昇により、感受性率の低下を認めた。依
14 頼検査検体の多い10農場で、菌種別分離状況及び薬剤
15 耐性率を調査し、診療獣医師からの聞き取り調査を実
16 施。検討内容を診療獣医師や畜産農家に還元すること
17 で乳房炎対策に寄与できると考える。